

大阪市長古市小学校 令和元年度校長経営戦略支援予算【基本配付・加算配付】実施報告書
(補足説明資料)

本校では、「令和元年度の小学校学力経年調査（校内調査）における『「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか』に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。」ことを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、『書く力』『読む力』の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行う。授業において対話に関する振り返りを行わせ、対話における学びの深まりを実感させる。」ことを設定した。

上記を達成するために、以下の1つの取組を行った。

1. 取組内容（1）について

1－1. 取組を実施する必要性

「書く力」「読む力」の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行う。「読む力」を育成することで個人内の思考力が働き、自分の考えを書いたり、発言したりすることにつながる。そこで、「読む力」を育成するために子どもが読書に親しむことができる環境を整備する必要性があると考えた。

本校の子どもたちは、読書に対して抵抗感はなく、ボランティアによる読み聞かせも熱心に聞くことができている。平素から本を手にとることができる環境を整備することで「本を読むことが楽しい」という意識をいっそう高めることができるはずである。そこで、全学級の学級文庫を充実させ、まず、読書に親しむ環境を整備し、読書に対する関心を高めるきっかけをつくりたい。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」の一環として、「国語の学力向上のため、全学級の学級文庫の整備を図り、「読む力」の育成と読書に対する関心を高める」ことを実施した。

1－2. 取組を実施することにより期待できる効果

本校は国語科の研究に2年間取り組んでいる。子どもたちに「読む力」を育成するためには、読書に親しむ環境を整えることが有効であると考えた。図書室での本の貸し出しを活用するだけでなく、各学級に設置する学級文庫の充実を図りたい。現在、学級に設置されている本は古く傷んでいる本が多い。したがって、子どもたちがすすんで本を手にとって読みたいという気持ちを喚起できる状態ではない。各学年の子どもの実態に沿った読み物を中心とした本を整備することで、読書に対する関心を高めることにつながると期待している。

1－3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

【学級文庫で置いている本の入れ替え】

具体的には、各学級の学級文庫に置かれている書籍は、図書室で本を入れ替えた際に、古い本から順に学級文庫として活用している。したがって、「今、読みたい」と子どもが興味を示す本が大変少ない。そこで、各学年担任が、子どもが興味を持つことができる「読み物」の書籍を選んだ。当初は各学級に新しく購入した書籍を置く予定であったが、新しい書架を学年の廊下に設置し、学級ごとではなく、学年でいつでも本を共有できるようにした。

1－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：B
- ・評価理由：

取組内容においては、令和元年度学校アンケートを実施し、「本を読むのが好きですか」という質問に対し、児童アンケートの結果は肯定的な回答が低学年は83%、高学年が73%であった。概ね本を読むことには興味を持つことができているが、高学年の割合は期待値よりも少し低い傾向があったといえる。

以上の結果からB評価とした。

2. 総論

2－1. 年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、「令和元年度の小学校学力経年調査（校内調査）における『「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか』に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。」という年度目標に対して令和元年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合が、前期と比べて85%→89%（低学年）76%→83%（高学年）に増加した。

また、『書く力』『読む力』の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行う。授業において対話に関する振り返りを行わせ、対話における学びの深まりを実感させる。」ことを設定し、これに対して、

学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いでは、前期と後期のアンケート結果を比較すると低学年 85%→89%、高学年 76%→83%と、対話的な学びに対して向上が見られた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「A」評価とした。

これは、子どもたちは学習で自分の考えをまとめたり、意見を発表したりすることを継続して行ってきた成果である。学校アンケート結果からも、肯定的回答が前期 60%→後期 81%と増加し、教員から見ても子どもたちの対話的な学びが促進されているとの認識が多かった。

また、子どもの変容として、ペアなどで話し合った後に書く振り返りでは、短時間で長い文章を書けるようになってきた学年や、聞く力の育成を大切にして 1 年間に過ごしたことで、友だちの話を聞くことが自分の学びにつながる楽しいことだと感じている子どもが増えたということが分かった。

2-2. 学校協議会における意見

本年度、新型コロナウイルス感染症予防において臨時休業となったため、最終の学校協議会は学校で開催することができなかった。そこで、資料を配布させていただき、それぞれの委員から意見をいただくことで開催に代えさせていただいた。皆さんから、本校の取り組みについては肯定的に評価していただいている。